

第2学年国語科学習指導案

日時 令和2年10月6日（火）3校時

児童 2年1組 22名

指導者 教諭 木田 英晴

1 単元名

「ことばあそびをしよう」（光村図書）

2 児童の実態

語彙については、読書指導や国語の授業の工夫により少しずつ増えており、授業中わからない言葉がある時にはみんなで確認しながら言葉を増やしている状況である。また、朝の学習の時間を使い読書をしたり、毎週水曜日には、読み聞かせをしていただいたりして物語の世界を楽しんでいる。

指導に当たっては、指導事項がどの児童にも確実に定着するよう、学習した内容を繰り返したり、まとめを確認したり、学び直しを行ったりしながら、反復練習を多く取り入れるようにしている。

学習評価やテストなどでは、問題文を正確に読み取り、条件や字数に合った回答ができるよう、重点的に指導している。

3 単元の指導目標

◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。【知(3)イ】

4 本単元と研究との関連

本年度は、仮説1の「言語活動において、指導内容の系統性を踏まえた上で、読書に親しむ活動を取り入れたり、繰り返しの学習を効果的に位置づけたりすることにより、子どもは確かな言語能力を身に付け、学んだことを生かして学習に取り組むだろう」という、仮説を検証するために、①読書指導の改善・充実、②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫、③言語活動例の活用、④効果的な繰り返し学習の工夫、ということに力を入れて授業を行っている。このような手立てをもとに、確かな言語能力を身に付け、学んだことを生かして学習に取り組むことのできる子の育成をしていきたいと考える。今回は、①読書指導の改善・充実と②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫という面を目標としてとりくみたいと考える。①については、関係性のある本を学習前に用意し、児童に知らせ言葉では伝わりにくい児童に朝読書などで読めるように準備してみた。②については、低学年で求められる、「言葉の豊かさに気付く」ということを言葉のリズムを楽しむこと 言葉を用いて発想を広げること 言葉を通して人と触れ合うことし

てとらえて授業を組み立ててみた。

小学校生活に慣れ、友人関係も整い、教師への信頼も高まる時期である。この時期の児童の学びには、知的で価値ある遊びも欠かせない。言葉遊びを通じて楽しく日本語の特徴を学び、声の出る教室となるように心がけたい。

本単元は、言葉遊びを通して語彙を豊かにし、言語感覚を養う単元である。折句、数え歌を楽しみながら、伝統的な言語文化として「いろはうた」や地域のかるたに触れる。

また、本単元は長く親しまれている言葉遊びに触れることを通して、児童が日本語の特徴を体感し、自分の語彙や言語感覚の向上を目指すための単元である。日本語は、同音異義語が豊富で五音・七音のリズムが心地よく、我が国にはさまざまな言葉遊びが生まれている。児童は実際に言葉遊びのいくつかを経験することによって、日本語の特徴が身につくことが望まれる。体感した日本語の特徴は、児童が生涯にわたって国語を使う際の基盤となる。また、学校生活を初めとする日常生活の中でさまざまな言葉遊びを楽しむきっかけにもなるだろう。

この単元では三つの学習活動が用意されている。第一は、折句遊びである。意味ある言葉のまとまりごとに改行し、それぞれの頭に指定の言葉を配置することによって完成する学びである。遊びの感覚で語彙を豊かにすると同時に、文節という単位を感じられることができる。第二は、言葉遊びを声に出して楽しむ活動である。「数えことば・数えうた」は日常生活の中で児童たちが親しみを込めて声にしてきたものであり、「ことばあそびうた」とともに、リズムが楽しく、言葉の音感を鍛えることに貢献するだろう。第三は、伝統的な言語文化に親しむ活動である。

「いろはうた」を声に出して読んだり、地域のかるたで実際に遊んだりしながら、児童は言葉遊びが古くから行われ、親しまれてきたことに気づくのである。

5 単元の授業過程(全2時間)

次	時	学習活動	評価規準
1	1 (本時)	① 「あいうえお」「あかさたな」を音読する。 ② 折句の文を作り、紹介しあう。	・進んで言葉の豊かさに気づき、学習の見通しをもって言葉遊びを楽しもうとしている。【態】 ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。【知(3)イ】
2	2	① 言葉の響きやリズムを楽しみながら、他の言葉遊びを音読する。	・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。知(3)イ

6 本時の学習

(1) 目標 言葉遊びに関心を持ち、楽しみながら音読したり、書いたりすることができる。

児童の学習活動	研究内容との関連	教師の支援・評価
<p>1 学習の見通しを持つ</p> <p>2 課題を知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ことばあそびの文を書いてみよう。</div> <p>3 折句を音読する。 折句を見て「あいうえおの歌」との違い</p> <p>●はじめの文字がその○行の言葉になる。</p> <p>●文節が2つある。</p> <p>あいうえお あかさたな</p> <p>折句の中から文を見つけ出す。</p> <p>4 文とは、？ 言葉探しの中から 文を作って 「～が、どうする。」の形</p> <p>5 説明を聞く</p> <p>①頭の文字が、「あいうえお」 ②文を入れた折句を作る。</p> <p>6 折句を考える あいうえお を頭文字にして折句を考える。</p> <p>7 ペアで相談</p> <p>8 出来上がりを全体で交流する</p> <p>9 本時のふりかえりをする。 言葉遊びをしてどんなことに気付いた り、感じたりしたか考える。</p> <p>10 次時の見通しを持つ。</p>	<p>効果的な繰り返し学習の工夫</p> <p>1年生で習った言葉遊び 「あいうえおのうた」で学習した、言葉遊びの思いで やリズムのある歌を思い出 し学習のつながりを感じる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価】 言葉遊びに関心を持ち、音読しているか。 (音読)</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価】 自分の考えた折句を書く ことができたか。 (記述)</p> </div> <p>指導内容の系統性を踏まえた 言語活動の工夫</p> <p>○ペアで交流することで 見つからない言葉や、友達 からのアドバイスを聞いて 作品に変化加える。 語彙の習得 言葉の広がり 言葉の豊かさ</p>	<p>リズムのある詩を音読し1年生で 学習したことを想起 言葉遊び、リズムのある歌</p> <p>○教科書を読み、本時の学習の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折句の頭の文字に気付く。 ・文節が2つあることに気付く。 <p>何が何する。の形</p> <p>○教師が作ったモデルから分を入れたモデルに変えていく方法で説明する(視覚的に) 「文節がないもの」×</p> <p>○考える際、言葉が出てこないで困ってしまったら、友達に聞いたり、黒板を手掛かりにしたりして折句を完成させる。</p> <p>○交流の際には、児童の作品の中からリズムのある作品を紹介したり、言葉を用いて発想を広げるような問いかけをしたりしながら交流する。 「リズム、575、文になっている。どんなことを想像したの？その後どうなるの？」</p> <p>昔からある言葉遊びに触れてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しが持てるよう説明する。

(4) 板書計画

か ことばあそびの文を書いてみよう。

あいうえお
ありがとう、
いけに
ういている。
えだにのって
おでかけだ。

あかさたな
あしかは、
かんがえている。
さつき
たべたのは
なんだったつけ、と。

気付いたこと
○はじめの文字が あいうえお あかさたな
○丸と点が付いている「くどうてん」P85
文
「くが、どうした。」という形
ことばあそびの文作りルール
①はじめの文字が あいうえお
②文を入れる

ふりかえり
リズム
できた
しった
おもしろかった
わかった

テレビ ふりかえり

あいうえおのうた
まど みちお
あかいえ あおいえ：
かきのき かくから
ささのは ささやく
たたみを たたいて
ないもの なになの
はるのひ はなふる
まめのみ まめのめ
：

モデル1

あかちゃん
いちご
うさぎ
えんぴつ
おむすび

モデル2

あかちゃん が
いちご をたべた。
うさぎ が
えんぴつ を
おむすび おいかけ
た。